

令和2年度 施策評価シート

基本目標	IV	安心して暮らせる「すみだ」をつくる
政策	460	安心して子育てができ、子ども・若者が夢や希望をもてるまちをつくる
施策	462	地域のなかで子どもを健全に育成できる環境をつくる
施策の目標	未来を担う大切な子ども・若者が、開かれた地域のなかでさまざまな人とつながり、人に対する思いやりの心を育みながら、輝く笑顔にあふれ健全に成長しています。	

1 基本計画における成果指標の状況

指標名	「地域のなかで子どもたちが健やかに成長している」と思う区民の割合									
	基準年 (H28)	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
目標					70.0					
実績	67.8									

指標名	学童クラブの待機児童数									
	基準年 (H28)	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
目標	139	129	33	0	55	-10	-34	-32	-13	-13
実績	139	187	207	145	246					

2 目標と現状(実績)についての分析及び総事業費推移

指標の推移・施策の課題や問題点について記述	総事業費推移（千円）	
学童クラブの定員拡充を図っているが、保護者の安全・安心な環境に対する需要の高まりから、待機児童の解消には至っていない。 また、児童館は18歳未満の児童の健全育成の場であるとともに、地域子育て支援拠点として乳幼児親子も対象とした子育て支援の場と位置付けており、その役割が拡大してきている。 そのことから、引き続き、墨田区子ども・子育て支援総合計画に基づき、放課後子ども総合プランとの整合を図りながら、学童クラブ定員を拡充するとともに、児童館事業の改善・充実を図ることによって、子どもを健全に育成できる環境の充実を図る必要がある。	H29	1,490,031
	H30	1,694,747
	R1	1,505,768

3 施策の評価及び判断理由

評価	理由
B	地域子育て支援拠点機能の強化など、一定の成果があるが、引き続き、学童クラブ待機児童が発生していることから、より効果的な取り組みが必要である。

4 今後の施策の運営方針

評価結果	施策の戦略的方向性
○	(1) 優先的に資源投入を図る。
	(2) 現状維持とする。
	(3) 現状維持だが、より効率的な運営を図る。
	(4) 資源投入の縮小を図る。
【上記の判断理由】	
学童クラブニーズはさらに高まることが予測されており、児童館は機能の拡充が求められている。	
【今後の具体的な方針】	
墨田区子ども・子育て支援総合計画に基づく学童クラブ待機児童対策を推進するとともに、児童館のあり方検討報告を踏まえた児童館機能の充実を図っていく。	

5 この施策に係る事務事業（重要度・貢献度順）

番号	事務事業名	歳出 決算額 (千円)	人コスト (千円)	歳出 総額 (千円)	目的に対する指標	
					年度目標値	直近の評価内容
					年度実績値	評価結果
					年度実績値	評価対象年度
1	民間委託分児童会館費等 (児童館第三者評価推進事業費を含む)	739,530	13,981	753,511	649,900	改善・見直し
					647,625	令和元年度
2	民間委託分学童クラブ費	693,808	13,981	707,789	0	改善・見直し
					145	令和元年度
3	新設学童クラブ設置等経費	16,439	6,553	22,992	0	改善・見直し
					145	令和元年度
4	放課後児童支援事業費	10,917	2,184	13,101	0	改善・見直し
					145	令和元年度
5	私立学童クラブへの助成	24,392	1,748	26,140	0	改善・見直し
					145	令和元年度
6	民間児童館活動支援事業	2,099	1,311	3,410	60	改善・見直し
					62	令和元年度
7	地域組織活動育成事業	150	1,311	1,461	15	改善・見直し
					27	令和元年度
8	私立学童クラブ整備助成費	14,417	1,748	16,165	0	現状維持
					145	令和元年度
9	新型コロナウイルス感染症 対策事業費(子育て政策課)	4,016	874	4,890	2061	現状維持
					2214	令和元年度

事業の 成 果	手段に 対する指標 (活動指標)	指 標	児童館数				単 位	館
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		11	R07	目標	11	11	11	11
				実績	11	11	11	11
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	11	11	11	11	11	11
	実績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	児童館は区内に11館(他分館1)あり、今後もこの館数を維持していく。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指 標	児童館利用者数(11館)				単 位	人
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1	
655,600		R07	目標	559,000	563,800	568,300	649,900	
			実績	555,575	560,454	575,739	647,625	
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目標		477,300	619,400	612,500	638,700	671,300	676,200	
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
利用者数を指標とする。令和3年度以降の目標値については、長期修繕計画と整合を図りながら、設定する。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
改善・見直しのうえ継続	児童館は、18歳未満児童の健全育成に有効な施設であることから、今後、社会情勢の変化を踏まえて地域子育て支援拠点機能等の強化を図りながら、より効果的かつ効率的な管理・運営に取り組む。

課題・問題点
0~18歳未満の児童を対象とする施設として、多様な機能の充実・整備が求められているが、施設の老朽化が進捗していることから、計画的な施設改修・更新が必要である。

事業の 成 果	手段に 対する指標 (活動指標)	指 標	公立学童クラブ定員数				単 位	人
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		2,664	R07	目標	1,515	1,565	1,615	1,690
				実績	1,525	1,575	1,680	1,800
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	2,110	2,190	2,300	2,380	2,460	2,460
	実績	2,042						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	対象者人口及び申込率を基に推計した必要定員数を指標とする。 (令和2年度より私立学童クラブ定員数を目標及び実績数に含める。)							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指 標	学童クラブの待機児童数				単 位	人
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1	
0		R07	目標	139	129	33	0	
			実績	139	187	207	145	
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目標		55	-10	-34	-32	-13	-13	
実績	246							
指標の選定理由及び目標値の理由								
必要な児童のための育成環境が整備されていることを目標とすることから、待機児童数を指標とする。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
改善・見直しのうえ継続	児童の安全な居場所を確保し、健全育成の環境を提供するため、有効な事業であることから、ニーズの拡大に対応しながら、引き続き適正に運用する。

課題・問題点
<p>学童クラブニーズ増加への対応が求められるが、事業実施可能な施設に限られ運営費の負担も増加している。学童クラブは「放課後等に育成環境を欠く児童」を対象とするが、保護者の安全・安心な環境に対するニーズから、対象外と見られる児童の申請も増加してニーズ増加の一因となっている。</p> <p>今後、公設学童クラブの整備と民設学童クラブ整備促進・運営支援、放課後子ども教室との連携強化等により、多様な放課後の居場所の確保を図って行く。</p>

施 策	462	地域のなかで子どもを健全に育成できる環境をつくる	部内優先順位
事 業 名	新設学童クラブ設置等経費		3
目 的	学童クラブがない小学校区域又は待機児童が発生している地域に学童クラブを開設することで、学童クラブの待機児童の解消を図る。		主管課・係(担当)
			子育て政策課児童館担当 03-5608-6195
対 象 者	保護者が就労等により昼間家庭にいない児童で、集団生活に適し、次にいずれかに該当する児童 ・区内にある小学校の1年生から3年生までの児童 ・区外の小学校の1年生から3年生までに在籍し区内に住所のある児童 ・その他特に必要があると認める児童		
根 拠 法 令	・児童福祉法		
関 連 計 画	・墨田区学童クラブ条例及び同施行規則 ・墨田区放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例		
実 施 基 準	法令基準	実施方法	全部委託 人員体制・委託先
事 業 内 容	児童福祉法第6条の3第2項に規定する放課後児童健全育成事業として、保護者が就労又は疾病等により昼間家庭にいない小学生に対して、授業終了後に放課後児童支援員による適切な保護と健全な育成を図ることを目的として、事業実施箇所を整備し必要な定員を確保する。		
経 過	開始年度	昭和49年度	終了予定
	新設学童クラブ ※27年度以降(民間委託分の経緯と併せる) ・27年開設2か所(四吾分室40人、中和第二分室35人)、中和分室定員減15人 ・28年開設2か所(さくら橋C第二学童40人、両国分室25人) ・29年開設2か所(鐘ヶ淵分室30人、錦糸分室20人) ・30年開設3か所(二寺第二分室20人、東吾孺分室30人、亀沢学童クラブ40人)言問分室定員増15人 ※亀沢学童クラブは、保育園改築事業(学童クラブ部分)で開設している。 ・31年開設3か所(墨四分室30人、曳舟分室25人、両小分室25人)、亀沢学童定員増40人 ・令和2年度開設(緑分室40人開設、業平分室定員増5人、八広本館定員増5人、三吾分室定員増5名、四吾分室定員増5名)		
議 会 質 問 の 状 況	[29年4定] 子ども・子育て支援事業計画の中間見直しについて [30年3定] 学童クラブ待機児童対策について [31年1定] 子ども・子育て支援ニーズ調査について [元年11月議会] 子ども・子育て支援総合計画について		
そ の 他 特 記 事 項	(他区の状況・年間スケジュール・関連部署等) 全国的に待機児童解消が課題となっており、国「新・放課後子ども総合プラン」では、「2023年度末までに計約30万人分の受け皿を整備(約122万人⇒約152万人)」としている。		

予算・決算額推移(千円)		27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	令和2年度
予算現額(事業費)		18,777	34,996	9,515	16,251	19,767	20,308
決算額(令和2年度は見込み)		9,096	20,299	4,359	13,482	16,439	20,308
財 源	国	2,667	8,000	8,000	14,074	3,186	4,200
	都	2,667	8,000	8,000	16,000	4,780	4,200
	その他						
一般財源		3,762	4,299	-11,641	-16,592	8,473	11,908
執行率(%)		48.4%	58.0%	45.8%	83.0%	83.2%	100.0%

予算・決算の内訳(単位:千円)								
平成30年度(決算)			令和元年度(決算)			令和2年度(予算)		
節	概要	金額	節	概要	金額	節	概要	金額
需用費	光熱水費及び消耗品	5,006	需用費	光熱水費及び消耗品	1,386	需用費	光熱水費及び消耗品	1,622
委託料	施設管理	1,840	委託料	施設管理	76	委託料	施設管理	616
工事請負費	工事費	3,149	工事請負費	工事費	10,945	工事請負費	工事費	10,030
備品購入費	備品購入	3,380	備品購入費	備品購入	1,151	備品購入費	備品購入	1,400
役務費	保険料及び賃借料	108	役務費	保険料及び賃借料	474	役務費	保険料及び賃借料	200

事業の 成 果	手 段 に 対 する 指 標 (活動指標)	指 標	新設学童クラブ定員数				単 位	人
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
			R07	目標	42	44	90	90
				実績	50	105	120	60
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	80	110	80	80		
	実績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	対象者人口及び申込率を基に推計した必要定員数を確保するための拡大数を指標とする。							
	目 的 に 対 する 指 標 (成果指標)	指 標	学童クラブの待機児童数				単 位	人
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1	
0		R07	目標	139	129	33	0	
			実績	139	187	207	145	
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目標		55	-10	-34	-32	-13	-13	
実績	246							
指標の選定理由及び目標値の理由								
必要な児童のための育成環境が整備されていることを目標とすることから、待機児童数を指標とする。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
改善・見直しのうえ継続	児童の安全な居場所を確保し、健全育成の環境を提供するため、有効な事業であることから、引き続き、ニーズの変動を踏まえた定員の拡大を図っていく。

課題・問題点
<p>学童クラブニーズ増加への対応が求められるが、事業実施可能な施設に限られ運営費の負担も増加している。学童クラブは「放課後等に育成環境を欠く児童」を対象とするが、保護者の安全・安心な環境に対するニーズから、対象外と見られる児童の申請も増加してニーズ増加の一因となっている。</p> <p>今後、公設学童クラブの整備と民設学童クラブ整備促進・運営支援、放課後子ども教室との連携強化等により、多様な放課後の居場所の確保を図っていく。</p>

事業の 成 果	手段に 対する指標 (活動指標)	指 標	フレンズみどりの定員数				単 位	人
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		40	R07	目標	40	40	40	40
				実績	40	40	40	40
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	50	50	50	50	50	50
	実績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	緑小学校の教室を活用していることから、最大定員数を指標とする。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指 標	学童クラブの待機児童数				単 位	人
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1	
0		R07	目標	139	129	33	0	
			実績	139	187	207	145	
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目標		55	-10	-34	-32	-13	-13	
実績	246							
指標の選定理由及び目標値の理由								
必要な児童のための育成環境が整備されていることを目標とすることから、待機児童数を指標とする。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
改善・見直しのうえ継続	国の「放課後子ども総合プラン」においても「平成31年度末までに全ての小学校区で、放課後児童クラブ及び放課後子ども教室を実施」と定められており、一体型の育成事業として有効なため、引き続き、教育委員会と連携しながら効率的に運用していく。

課題・問題点
緑小学校児童数の増加に伴い実施場所(緑小分室)が変更になった。実施場所の緑小分室は、貸出施設となっているため、平日の午前中は貸出を行っている。長期休暇中、午前中の育成を行う場合、代替場所について課題がある。

事業の 成 果	手段に 対する指標 (活動指標)	指 標	私立学童クラブ定員数				単 位	人
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		555	R07	目標	205	205	205	205
				実績	205	205	205	205
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	205	285	395	475	555	555
	実績	205						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	学童クラブの待機児童の解消を目標としていることから、解消に寄与する定員数を指標とする。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指 標	学童クラブの待機児童数				単 位	人
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1	
0		R07	目標	139	129	33	0	
			実績	139	187	207	145	
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目標		55	-10	-34	-32	-13	-13	
実績	246							
指標の選定理由及び目標値の理由								
必要な児童のための育成環境が整備されていることを目標とすることから、待機児童数を指標とする。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
改善・見直しのうえ継続	学童クラブの待機児童解消のほか、児童の安全・安心な居場所の確保のために、本補助は必要不可欠である。待機児童解消のため、制度の見直しを検討のうえ引き続き補助していく。

課題・問題点
区内の私立学童クラブ5施設に対し、「墨田区私立学童クラブ事業補助要綱」に基づき、補助金を支出しているが、学童クラブ待機児童対策が喫緊の課題になっており、私立学童クラブの定員拡大とこれに合わせた質の確保を検討する必要がある。

補助金 名称	私立学童クラブへの助成		主管課・係（担当）
根拠法令	墨田区私立学童クラブ事業補助要綱		子育て政策課児童館担当
補助概要	私立学童クラブに対し、運営に係る経費の一部を補助する。		03-5608-6195
目的	私立学童クラブに対し経費の一部を補助することにより、学童クラブ事業の充実及び就労等により児童の育成が困難な保護者の負担の軽減を図り、合わせて児童の健全な育成を図る。		
対象	区内学童クラブ事業を運営する民間団体		
基準	区独自基準		
補助条件	補助の対象児童は、小学3年生以下とする。 (1) 指導員の人件費 ・児童数10人～20人 指導員数1名 ・児童数21人～40人 指導員数2名 ・児童数41人以上 指導員数3名 行政職給料表（一）1級40号の3/4 (2) 施設の維持管理に要する経費 ・月額50,000円（限度額） (3) 運営費 ・教材費等消耗品費経費 月額@600×在籍児童数（60人限度） ・備品購入経費 年額50,000円		
経過	開始年度	平成5年	終了予定
	平成5年4月1日から事業開始。補助要綱を制定し「興望館学童クラブ」に補助開始 平成8年度から財団法人「本所賀川記念館学童クラブ」に補助開始 平成14年度から財団法人「共愛館学童クラブ」に補助開始 平成25年度から社会福祉法人緑榮会「墨田みどり学童クラブ」に補助開始 登録人数（平成31年4月）…3年生以下161人、4年生以上74人 ・興望館本館（3年生以下46人、4年生以上26人） ・興望館分館（3年生以下31人、4年生以上13人） ・本所賀川記念館（3年生以下36人、4年生以上25人） ・共愛館（3年生以下36人、4年生以上66人） ・墨田みどり（3年生以下12人、4年生以上4人）		
議会質問 の状況	[31年予特] 私立学童クラブ助成の拡充について [元年11月議会] 民間学童補助について		
その他 特記事項	（他区の状況・年間スケジュール・関連部署等） 文京区等で民間学童クラブ助成制度による定員拡大実績がある。		

予算・決算額推移（千円）		27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	令和2年度
予算額（事業費）		24,355	24,355	24,355	24,355	24,358	25,839
決算額（令和2年度は見込み）		24,027	23,744	22,010	22,010	24,392	25,839
財源	国	6,897	7,618	9,257	9,229	10,535	9,229
	都	8,961	8,731	10,449	10,480	8,119	10,866
	その他						
一般財源		8,169	7,395	2,304	2,301	5,738	5,744
執行率（%）		98.7%	97.5%	90.4%	90.4%	100.1%	100.0%

補助金の 成果	手 段 に 対する指標 (活動指標)	指 標	私立学童クラブ定員数				単 位	人
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		555	R07	目標	205	205	205	205
				実績	205	205	205	205
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	205	285	395	475	555	555
		実績	205					
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	学童クラブの待機児童の解消を目標としていることから、解消に寄与する定員数を指標とする。							
	目 的 に 対する指標 (成果指標)	指 標	学童クラブの待機児童数				単 位	人
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		0	R07	目標	139	129	33	0
				実績	139	187	207	145
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	55	-10	-34	-32	-13	-13
実績		246						
指標の選定理由及び目標値の理由								
必要な児童のための育成環境が整備されていることを目標とすることから、待機児童数を指標とする。								
評価結果		評価についての説明・今後の方向性等						
改善・見直しのうえ継続		学童クラブの待機児童解消のほか、児童の安全・安心な居場所の確保のために、本補助は必要不可欠である。待機児童解消のため、制度の見直しを検討のうえ引き続き補助していく。						

課題・問題点	
<p>区内の私立学童クラブ5施設に対し、「墨田区私立学童クラブ事業補助要綱」に基づき、補助金を支出しているが、学童クラブ待機児童対策が喫緊の課題になっており、私立学童クラブの定員拡大とこれに合わせた質の確保を検討する必要がある。</p>	

事業の 成 果	手段に 対する指標 (活動指標)	指 標	児童館の利用登録数				単 位	人
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		120	R07	目標	112	120	120	120
				実績	112	129	139	113
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	120	120	120	120	120	120
	実績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	放課後の過ごす場所として児童館も含まれることから、利用登録数を指標とする。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指 標	児童館事業回数				単 位	人
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1	
60		R07	目標	60	60	60	60	
			実績	63	63	62	62	
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目標		60	60	60	60	60	60	
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
利用者が事業に参加することにより体験できる機会が与えられることから、事業回数を指標とする。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
改善・見直しのうえ継続	民間活力の活用により、児童への多様な体験の機会及び安全・安心な居場所が確保でき、効果の高い事業である。引き続き補助していく。

課題・問題点
児童館の先駆的事业として、専門的機能を活かした相談支援事業を中心に承認するが、区が活動支援を開始することに伴い、多様化する子育て支援のニーズに対応する新たな事業の実施についても協議する。

補助金の 成果	手 段 に 対する指標 (活動指標)	指 標	児童館の利用登録数				単 位	人
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		120	R07	目 標	112	120	120	120
				実 績	112	129	139	113
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目 標	120	120	120	120	120	120
		実 績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	放課後の過ごす場所として児童館も含まれることから、利用登録数を指標とする。							
	目 的 に 対する指標 (成果指標)	指 標	児童館事業回数				単 位	回
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		60	R07	目 標	60	60	60	60
				実 績	63	63	62	62
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
目 標		60	60	60	60	60	60	
実 績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
利用者が事業に参加することにより体験できる機会が与えられることから、事業回数を指標とする。								
評価結果		評価についての説明・今後の方向性等						
改善・見直しのうえ継続		民間活力の活用により、児童への多様な体験の機会及び安全・安心な居場所が確保でき、効果の高い事業である。引き続き補助していく。						

課題・問題点	
<p>児童館の先駆的事业として、専門的機能を活かした相談支援事業を中心に承認するが、区が活動支援を開始することに伴い、多様化する子育て支援のニーズに対応する新たな事業の実施についても協議する。</p>	

事業の 成 果	手段に 対する指標 (活動指標)	指 標	地域組織における会員数(2団体)				単 位	人
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		195	R07	目標	195	195	195	195
				実績	182	200	196	173
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	195	195	195	195	195	195
	実績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	地域組織団体は会員数により活動の幅に関係することから、会員数を指標とする。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指 標	児童館と共催の行事数(2団体)				単 位	回
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		15	R07	目標	15	15	15	15
				実績	32	32	32	27
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	15	15	15	15	15	15
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
児童館行事のなかには地域との連携が欠かせないものがあることから、共催している行事数を指標とする。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
改善・見直しのうえ継続	地域と児童館との連携により、児童の安全・安心な居場所が確保できていることから、効果の高い事業である。引き続き補助していく。

課題・問題点
効果的な地域での児童健全育成活動について、活動内容に応じた支援を推進する必要がある。

補助金の 成果	手 段 に 対する指標 (活動指標)	指 標	地域組織における会員数（2団体）				単 位	人
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		195	R07	目 標	195	195	195	195
				実 績	182	200	196	173
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目 標	195	195	195	195	195	195
		実 績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	地域組織団体は会員数により活動の幅に関係することから、会員数を指標とする。							
	目 的 に 対する指標 (成果指標)	指 標	児童館と共催の行事数（2団体）				単 位	回
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		15	R07	目 標	15	15	15	15
				実 績	32	32	32	27
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
目 標		15	15	15	15	15	15	
実 績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
児童館行事のなかには地域との連携が欠かせないものがあることから、共催している行事数を指標とする。								
評価結果		評価についての説明・今後の方向性等						
改善・見直しのうえ継続		地域と児童館との連携により、児童の安全・安心な居場所が確保できていることから、効果の高い事業である。引き続き補助していく。						

課題・問題点	
効果的な地域での児童健全育成活動について、活動内容に応じた支援を推進する必要がある。	

事業の 成 果	手段に 対する指標 (活動指標)	指 標	学童クラブの定員数				単 位	人	
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1	
		80	R07	目標					0
				実績					
			R2	R3	R4	R5	R6	R7	
		目標	40	40	80	80	80	80	
	実績								
	指標の選定理由及び目標値の理由								
	本施設の建設により、学童クラブの定員が確保されることから、定員数を指標とする。								
	目的に 対する指標 (成果指標)	指 標	学童クラブの待機児童数				単 位	人	
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1		
0		R07	目標	139	129	33	0		
			実績	139	187	207	145		
		R2	R3	R4	R5	R6	R7		
目標		55	-10	-34	-32	-13	-13		
実績	246								
指標の選定理由及び目標値の理由									
必要な児童のための育成環境が整備されていることを目標とすることから、待機児童数を指標とする。									

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
現状維持	学童クラブニーズの高い地区であり、運用の必要性は高いことから、併設保育施設との連携を強化しながら、引き続き、効率的な運用を図っていく。

課題・問題点	

補助金名称	私立学童クラブ整備助成費		主管課・係（担当）	
根拠法令	墨田区私立学童クラブ事業補助要綱		子育て政策課児童館担当	
補助概要	待機児童の解消を目指し、区有地を活用して学童クラブを整備する。土地を借り受けた事業者が自ら施設を建築し、整備に要した費用の一部を補助する。		03-5608-6195	
目的	待機児童の解消を目指し、区有地を活用して学童クラブを整備する。土地を借り受けた事業者が自ら施設を建築し、整備に要した費用の一部を補助する。			
対象	民間設置者			
基準	区独自基準			
補助条件	補助の対象者が、墨田区家庭センター跡地に設置する認可保育所等施設内で、児童福祉法第6条の3第2項の規定に基づく学童クラブを設置し、「平成29年度子ども・子育て支援整備交付金交付要綱」の施設整備のうち整備区分が創設にあたるものに対して、施設の整備に必要な工事費又は工事請負費、工事事務費、備品等購入費、その他施設整備費として区長が必要と認めた経費を補助する。			
経過	開始年度	令和元年度	終了予定	
	タムス学童クラブ墨田の整備については令和元年度単独事業の予定であったが、開設日が変更により令和2年度にかかる2か年事業となった。			
議会質問の状況	なし			
その他特記事項	（他区の状況・年間スケジュール・関連部署等） タムス学童クラブ墨田開設日：令和2年7月1日			

予算・決算額推移（千円）		27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	令和2年度
予算額（事業費）						32,040	17,623
決算額（令和2年度は見込み）						14,417	17,623
財源	国					8,239	9,594
	都					4,119	4,833
	その他						
一般財源		0	0	0	0	2,059	3,196
執行率（％）		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	45.0%	100.0%

補助金の 成果	手 段 に 対する指標 (活動指標)	指 標	学童クラブの定員数				単 位	人	
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1	
		80	R07	目標					0
				実績					0
			R2	R3	R4	R5	R6	R7	
		目標	40	40	80	80	80	80	
		実績							
	指標の選定理由及び目標値の理由								
	本施設の建設により、学童クラブの定員が確保されることから、定員数を指標とする。								
	目 的 に 対する指標 (成果指標)	指 標	学童クラブの待機児童数				単 位	人	
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1	
		0	R07	目標	139	129	33	0	
				実績	139	187	207	145	
			R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目標		55	-10	-34	-32	-13	-13		
実績		246							
指標の選定理由及び目標値の理由									
必要な児童のための育成環境が整備されていることを目標とすることから、待機児童数を指標とする。									
評価結果		評価についての説明・今後の方向性等							
現状維持		学童クラブニーズの高い地区であり、運用の必要性は高いことから、併設保育施設との連携を強化しながら、引き続き、効率的な運用を図っていく。							

課題・問題点	

事業の 成 果	手段に 対する指標 (活動指標)	指標	学童クラブ数(公立・私立)				単位	か所
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		60	R07	目標				50
				実績				50
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	52	54	56	58	60	60
	実績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	物品の必要量は学童クラブ数に関係することから、学童クラブ数を指標とする。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指標	学童クラブ登録人数(公立・私立)				単位	人
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1	
2,651		R07	目標				2,061	
			実績				2,214	
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目標		2,369	2,384	2,470	2,552	2,651	2,651	
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
利用児童のための感染症対策環境が整備されていることを目標とすることから、登録人数を指標とする。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
現状維持	新型コロナウイルス感染症に対して、利用者、職員等が安心して施設を利用するために徹底した感染拡大防止策を実施することが必要である。

課題・問題点